

神戸大学 数理・データサイエンスセンター教育研究支援基金

1. 基金の名称

神戸大学数理・データサイエンスセンター教育研究支援基金（神戸大学基金）

2. 基金の趣旨・目的

情報化産業革命が進展する中、様々なデータに関わる課題解決や価値創造のためのグローバルデータイノベーション拠点を目指して、数理・データサイエンスセンターが2017年12月に設置されました。Society5.0を支える先端的なデータサイエンス研究、データイノベーション教育による人材育成、そして産官学・地域連携の拠点として、大学、研究機関、企業、地方自治体との連携の拠点となることを目指し、様々な活動を行っています。また、シンガポールの南洋理工大学等とのデータサイエンスに関する教育研究連携も行っています。これらの教育・研究活動に対して、ご支援をお願いするものです。

3. 主な基金の用途

- (1) データサイエンスの先端研究・先端技術開発に対する支援
- (2) データサイエンス研究を行う大学院生・若手研究者への支援
- (3) データサイエンスに関する連携と普及活動の推進（中・高生、企業、地域）
- (4) データサイエンスの教育・研究をサポートする非常勤職員の雇用

4. 基金の設置が必要な理由

- (1) 数理・データサイエンスセンターには、神戸大学の様々な分野の研究者が所属し、数理科学・統計科学、人工知能、ビッグデータ解析、情報セキュリティ、マルチメディアデータ解析、高性能コンピューティング、サイバーフィジカルシステム、金融、サービス、マーケティング、医療データなどの先端的研究および実践研究をおこなっています。そして、各分野の独自の研究を進め、融合研究を推進することが強く求められています。このための基盤となる計算プラットフォーム、データプラットフォームを整備するための費用が必要です。
- (2) グローバルデータイノベーション拠点として、国際的に認知されるためには、大学院生を含めた若手研究者が、国内外のトップ研究者と連携する体制を構築する必要があります。そのために、海外の有力大学との連携を活かし、若手研究者の海外派遣、また海外からの研究者招聘による連続講演会などを開催するための費用が必要です。
- (3) 社会全体において、データを有効に活用できる人材の育成の必要性を認識することが肝要です。そのために、講演会やシンポジウムなどを開催し、普及活動を行い、多くの連携関係を築くための費用が必要です。
- (4) 当センターが以上の役割を果たすためには、各種連携を円滑に組織・整理することが必要であり、そのために研究支援職員を雇用するための財源が必要です。

5. その他

- (1) 研究成果報告会、報告書等の作成を計画しています。